



2026年 新年のご挨拶

令和8年、新年あけましておめでとうございます。

昨年は当院にとって変化の年でした。

病院創設以来52年間、当院を支えてくださった斎藤惇生先生と、11年間内科と救急を頑張っていた奥宮清人先生が逝去されました。悲しい思いにくれながらも、病院業務に励んでいましたが、その後2人の外科医と1人の内科医が新たな常勤医として入職されました。

すでに十分な経験を積まれた有能な3人が加わったことで、当院の診療レベルの向上と救急体制の補完がなされたと思います。

一方、すでにニュース等でご存じとは思いますが、病院経営の難しさは例外に漏れず当院でも重要課題となっています。人材確保、設備投資への資金調達は絶対条件です。良い医療も経営安定があつてこそ、持続可能となります。

そのため、夜間、休日に多くの人材をあてることはできません。救急体制もできる範囲にせざるをえません。医師の勤務時間も法律の範囲内にすることが国から求められています。そのことは医療過誤の防止になり有意義な方向性とは思いますが、現実には医師一人にかかる業務量をこなすには難しい規定になっています。

多くの課題をこなしつつ、それでも最善の医療、理想の医療を目指して本年も奮闘していきます。

新河端病院が地域の皆さんに支持される病院であり続けることを目指して今後も一層努力していきます。



令和8年1月1日 新河端病院 院長 浅野 恒一郎

新河端病院 理念

信頼と安心の医療

- ・患者様に感動をしていただける医療を実践します
- ・患者様に選んでいただける病院づくりを実践します

「患者さまの権利」

- 患者さまには次のような権利があります。
私たちはその権利を尊重するような医療を行います。
- ・医療を受ける権利
 - ・知る権利
 - ・自分で決定する権利
 - ・プライバシーを守られる権利

医療法人 医修会 新河端病院

 病院に対するご意見ご希望、また「ふれあい」へのご意見をお聞かせ下さい。(備え付けの意見箱をご利用下さい。)